



Vol.1 温湯消毒&脱水編

(2017.04.06)

今年は桜の開花が遅く開花を心待ちしながら、今年も育苗準備が始まり、まずは播種前の下準備から。これがとても重要な作業なんです！

温湯消毒～浸種

播種ハウス周辺の草刈りや育苗センターの点検など育苗の準備が終り、種子の準備に入ります。播種をするためには**芽出し**が必須なんです！まず最初に種子を60℃のお湯に10分、水に5分漬けて**温湯消毒**をします。『温湯消毒』は、種子を消毒する方法として、農薬を使用せずにお湯で殺菌する方法です。農薬を使わなくても、農薬と同等の効果が得られるので、滋賀県の環境こだわり米の普及とともに、水稻種子の温湯消毒の取り組みが広がっています。

次に消毒後、種子を水に浸けます。この作業は**浸種**といい、10℃から13℃の水槽に1週間から10日ほど浸けておきます。種子は見た目上違いが分からないので、袋には品種が間違わないように品種ラベルを入れてしっかり管理します！



催芽～脱水



こんな感じで芽が出ます

播種が終わると次は**芽出し**（催芽）をします。催芽は芽を出し過ぎると播種機に詰まったり芽が切れたりする原因となるので、休日や夜間にも担当者が育苗センターに足を運び種子の状態を確認しています。本当に種子の管理は大切なんです！大切なのは催芽だけではありません！その後、遠心脱水機でしっかり水分を切ります。水気をしっかり切らないと播きムラや機械故障の原因となります！機械はとてもデリケートなんです！（笑）